

テレビの破線ノイズによる地震予知

A trial for earthquake prediction by noise of television.

高橋 史典 [1]

Fuminori Takahashi[1]

[1] なし

[1] none

大阪市立大学の学術調査団が収集した阪神・淡路大震災 (1995.1.17; M7.2) の前兆証言集に、興味深い証言が寄せられている (Wadatsumi, 1995)。地震発生の数週間前から、VHF帯のテレビ画面に斜めの破線ノイズが走っていたという証言である。ノイズと言えば、ランダムに発生するイメージがあるが、この証言によれば、規則性をもったノイズが地震発生前に見られたと言うのである。私はこの現象に興味を抱いた。本当に規則性をもったノイズが存在するのか、しかもそれが地震と関係があるのかどうか、観察してみることにした。

観察は、テレビを観ることから始めた。開始当時、気になるノイズはなかったが、半年ほど経過した時、ふと、テレビの1chを見ると斜めの破線ノイズが出ていることに気が付いた。早速、チューナーが内蔵されているパソコンを用いてテレビ映像を録画し、斜線が成す角度を15分間隔で測定してみた。3日後、大分県西部地震 (M6.2) が発生、観測地点 (広島県福山市) で震度4の揺れとなった。しかも、地震の発生時刻が、角度のピーク時刻と一致するデータを得た。その後、破線ノイズは20日程かけて角度を下げていき、最後には、まばらなノイズへと姿をかえた。

再現性の確認のために、約2年間に亘りTVノイズを観察してみたところ、確かに大きな地震の前には、斜めの破線ノイズがテレビ映像に現れていることが確認された。

今回発表することになった現象は、特徴あるノイズを観察するので、雷や空電によるノイズと簡単に区別ができる利点がある。しかも、普及率の高いテレビを利用するので、防災にかなり役立つのではないかとと思われる。

地震の前兆を捉えた事例

観測点 広島県福山市

2006年6月12日 大分県西部地震 M.6.2

2006年9月26日 伊予灘地震 M.5.3

観測点 愛知県安城市

2007年3月25日 能登半島沖地震 M.6.9

2007年4月15日 三重県中部地震 M.5.4

2007年7月16日 新潟県中越沖地震 M.6.8